

飼料用トウモロコシの不耕起栽培 における雑草防除体系

研究のねらい

飼料用トウモロコシ（以下、トウモロコシ）の不耕起栽培は、耕起栽培と同等の収量が得られ、耕起・整地を省略できることが大きなメリットです。

しかし、トウモロコシの生育初期における雑草防除が大きな課題となっています。

そこで、不耕起播種した場合の除草剤による雑草防除体系を紹介します。なお、不耕起対応高速播種機は農研機構らが開発し、市販されています。

技術の特徴

1 除草剤の散布時期と効果

前作にエンバクを生産した圃場では、雑草占有率が80%以上ありました。しかし、播種の約10日前にグリホサート剤を散布したところ、雑草占有率は約80%から約70%に減少しました。シロザは約40%に増加しました（図）。

その後、3葉期にアトラジン剤とトプラメゾン剤を混合して全面散布したところ、裸地は約80%、シロザは約20%となり、雑草の繁茂は大幅に抑制されました（図、写真）。

2 雑草防除体系

播種前（7～10日）にグリホサート剤、茎葉処理（トウモロコシ3葉期）にアトラジン剤とトプラメゾン剤の混合全面散布が効果的です。



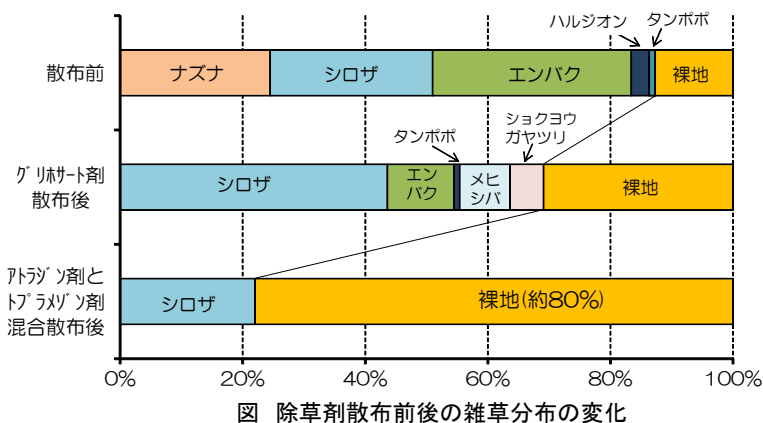
写真 播種50日後の畝間の状況(6月上旬)

今後の取り組み

今後、研修会等で生産者への情報提供を行い、トウモロコシの不耕起栽培の普及を図ります。

（執筆者：斎藤 拓真）

耕種概要	播種	4月下旬
(相対熟度	収穫	8月上旬
:110)	熟期	黄熟中期
雑草防除	播種前	グリホサート剤
(全面散布)	7～10日	
	茎葉処理	アトラジン剤と
	トウモロコシ3葉期	トプラメゾン剤
乾物収量	耕起	2,445
(kg/10a)	不耕起	2,346



連絡先：畜産試験場 飼料環境係（電話027-288-2222）